第３学年　道徳学習指導案

２組　計２５人（男子９人，女子１６人）

指導者　　平　田　秀　司

１　主　題　名　　心がさかせた花　　（３－（３）　敬けん）

読み物資料「花さき山」（学習研究社３年）

２　主題について

(1)　内容項目とその系統

【低学年３－（3)】
「美しいものに触れ，すがすがしい心をもつ。」

【中学年３－（3)】
「美しいものや気高いものに感動する心をもつ。」

【高学年３－（3)】
「美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。」

(2)　指導内容についての基本的な立場

美しいものや気高いものに感動することは，豊かでありながらも謙虚さを大切にした人間らしい生き方をしていく上で大切なものである。また，感動したり，畏敬の念をもったりすることは，想像する力や感じる力を育み，自身の心を豊かにしてくれる。

この期の子どもたちは，認識能力の発達に伴って，想像する力や感じる力が増してきている。しかしながら，美しいものや気高いものに触れても，その素晴らしさに気付かなかったり，他者の視線を意識し始めることで，素直な気持ちで感動を表さなかったりすることも見られる。また，表面的な美しさには感動できるが，内面的な美しさや気高さに対して気付き，感動する能力がまだ発達の過程にあると言える。

そこで，本主題では，一人一人の自己の想像する力や感じる力を働かせ，日常生活における行為の気高さやその背景にある心の美しさに気付き，素直な気持ちで感動することの素晴らしさを感じ取るようにする。これにより，感動する心を育み，美しいものや気高いものを大切にしようとする心情を育てることをねらいとしている。

これらの心情を高めていくことにより，多様な美しさや気高さに気付く能力を培うとともに，人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつことへとつながっていくものと考える。

(3)　本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第３学年及び第４学年

美しいものや気高いものに感動する心情を育てる。

道徳的実践を支える考え方や感じ方

自己とのかかわり	他者とのかかわり	集団・社会とのかかわり
◎自己の快い感情（すがすがしい気分になる）	◎他者との快い感情（互いがすがすがしい気分になる）	◎気持ちの通い合い（気持ちが分かり合える）
◎自己の成長（感動する心をもつ）	○他者の成長（友達も感動する心をもつ）	◎明るく楽しい生活（みんなが幸せに暮らせる）
○想像力の成長（想像力豊かになる）		○平和な住みよい社会（心豊かに暮らせる）

実践を阻む要因

◎恥ずかしさ（素直に感動できない）

◎無感動・無関心（美しいものに気付かない）

心構え

◎　素直な心をもつ　◎　謙虚さをもつ　◎　正直な心をもつ

○　思いやりの気持ちをもつ　○　美しいものを大切にしようとする態度をもつ　○　誠実な心をもつ

（◎は重点項目）

(4) **資料について** [　　] 中心場面

【場　面】	(道徳的な見方考え方)【主人公の心情】	【価　値】
① 山菜採りにいったあやは，道に迷い山ンばと出会う。	・きれいな花だなあ。	敬けん
② 花さき山の花がなぜ咲くのか聞き，自分が我慢している気持ちが花を咲かせたことを知る。	・人の優しさが花になるんだ。 ・妹のそよのために我慢したんだよなあ。 ・わたしが我慢すればお母さんも困らないだろう。 ・わたしの我慢が赤い花を咲かせたんだ。 ・なんてきれいな赤い花なんだろう。	敬けん 節度・節制，自立 家族愛
③ 小さな青い花は，双子のお兄さんが咲かせたことを知る。	・小さな赤ん坊でも我慢しているんだなあ。 ・弟に優しい心をもっているんだなあ。 ・ここ一面の花は，多くの優しさと健気さが咲かせたんだなあ。 ・たくさんの人たちが優しい心をもっているんだなあ。	敬けん 思いやり・親切 家族愛

3　子どもの実態

(1)　道徳の時間に関する子どもの実態

(調査人数２５人　H18. 9. 19)

項　　目	◎	○	△
資料の登場人物に疑問や共感，憧憬を感じる。	２０	5	0
友達の意見に疑問や共感，憧憬を感じる。	１５	9	1
教師や家族，地域の方の生き方や考え方に疑問や共感，憧憬を感じる。	１５	１０	0
自分の生き方や考え方に疑問や共感，憧憬を感じる。	１４	１０	1
「大事なんだけど，自分はできていないな」と思う。	9	１５	1
「自分はこうだったな」，とか「これからこうしていきたいな」と自分のことを考える。	１６	8	1
自分のこれまで行ってきたことに「やってよかったな」，「いいことをしたな」と感じる。	１９	6	0
道徳の時間に一生懸命考えようとしている。	１８	6	1
道徳の時間に考えたことを，「これからの生活に生かしていきたい」と思う。	１７	8	0

(◎…よく当てはまる，○…どちらでもない，たまにある，△…まったく当てはまらない)

(2) 本主題に関する子どもの実態

(調査人数２５人　重複あり　H18. 9. 16)

ア　本主題に関する経験場面①

「美しい」「きれいだ」と思うこと	人数
・ たまにある	１５
・ よくある	8
・ ほとんどない	2

イ　本主題に関する経験場面②

「美しい」「きれいだ」と思うもの	人数
・ 花や木などの植物	１１
・ 海や川	8
・ 宝石	7
・ 夕日，星，月	6
・ その他（モデル，絵，シャボン玉）	各 1
・ ない，分からない	4

ウ　道徳的価値の意義

「美しい」「きれいだ」と思うことが大切な理由	人数
・ 心がきれいになるから	9
・ 美しいものを見つける力が育つから	4
・ 役に立つから	2
・ 当たり前のことだから	2
・ 自分の心が明るくなるから	1
・ きたない心はいけないから	1
・ 大切だから	1
・ 分からない	5
・ 無回答	1

エ　道徳的価値に対する心構え

「美しい」「きれいだ」と思うために大切な心構え	人数
・ 美しい心をもつ	１０
・ 優しい気持ちをもつ	5
・ 素直な気持ちでいる	3
・ 明るい心をもつ	2
・ いろいろなものを見ようとする	2
・ 分からない	2

(3) 考　察

ア　道徳の時間に関する子どもの実態から

子どもたちは，資料の登場人物の生き方や考え方に共感や疑問をもったり，道徳的価値にかかわる自分のこれまでの生き方に達成感を感じたりしてきている。しかしながら，道徳的価値にかかわる自分の心の弱さや，それを乗り越えられなかった自分について振り返って考えることがうまくできていないことも分かる。また，友達や身の周りの人の生き方や考え方に共感，疑問や憧憬に対して，半数近くの子どもが十分に感じていないことが見られた。

イ　本主題に関する実態から

調査の結果から，ほとんどの子どもたちが普段の日常生活で感じている美しさの対象は，海，宝石，花や星など目に見えるものばかりである。したがって，人の行為や心情に対して美しさを感じている子どもは見られないことが分かる。また，少数ではあるが，美しさを感じた経験がなかったり，美しいものを考えつかなかったりする子どもも見られた。

道徳的価値の意義については，「心がきれいになるから」や「美しいものを見付けられるから」と答える子どもが見られ，心構えに対しても，「美しい心をもつ」や「優しい気持ちをもつ」などの考えが多く見られた。しかしながら，これらの質問に対しても，三割近くの子どもが，無回答また「分からない」と答えていた。

これらのことから，目に見える美しさに感動する心を大切にしながら，目に見えないものにまで美しさを感じることができるように指導する。そして，誰もが美しい心をもっていることを実感させながら，それらに気付いたり，見付けたりすることができるように指導していく必要があると考える。

4　本　時

(1) 目　標

○　心の美しさや気高さに触れ，それを大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) **指導に当たって（研究の視点との関連）**

①　「深める」過程では，子どもたちが身近な人々の「魅力」に深くかかわることができるようにするために，自分たちが「花さき山」の花を咲かせる活動を通して，自分の周囲の人々の心の美しさや気高さについて考えることができるようにする。その際に，気付くことができた子どもたちに温かい声かけを行うことで，子どもたちが心の美しさや気高さを見付けることができた喜びを十分に味わうことができるようにする。

【視点１－イ－（イ）　発問，声かけの工夫】

【視点２－ア　自分の可能性を味わうことができる指導の工夫】

【視点２－イ（ア）　書く活動の充実，ワークシートの工夫】

②　「高める」過程では，教師が事前に準備しておいた子どもたちの心の美しさを書いた花のカードを読むことで，一人一人が，美しいと感じられる心情をもっていたり，行為を行ってきたりしてきたことに気付くことができるようにする。そのことにより，互いが心の美しさを見付け出そうとする意欲や，気高い行為をしようとする意欲を高めることができるようにする。

【視点２－ア　自分の可能性を味わうことができる指導の工夫】

(3) **展　開**　教師の言葉かけ（　　）　予想される子どもの反応（　　）　評価項目［　　］　◇ 研究の視点に関する内容

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
気付く（5）	1　美しいものについて話し合う。 花ってきれいだな。 きれいな夕日を見たよ。 美しいものとはどのようなものなのか考えよう。	○　実物（花）を提示し，感想を話し合ったり，美しいものとはどんなものか話し合ったりすることで，自分たちが多く感じる「美しさ」は，目に見えるものが多いことに気づくことができるようにする。
見つめる（25）	2　資料「花さき山」を視聴し，主人公の心情を中心に話し合う。 (1) 初発の感想を発表し合う。 あやは，どんな気持ちで花を見ていたんだろう。 (2) 一面に咲く花を見て，あやはどう思ったか話し合う。 こんな山奥に咲いている花を見て，あやはどう思ったかな。 きれいだなあ。 何でこんな所に咲いているのかな。 (3) *あやは，どんなことを考えながら自分が咲かせた花を見ていたのか話し合う。* 足もとに咲いている赤い花を見て，あやはどんな気持ちだったのかな。 きれいだなあ。 着物の色と同じだね。 我慢してよかったな。 何で咲いたんだろう。 (4) 青い花や他の花を見て，あやはどんな気持ちになったか話し合う。 青い花や他の花を見て，あやはどんなことを思ったかな。 わたしだけではなく，みんなも我慢しているんだ。 たくさんの人の優しい心が花を咲かせるんだね。	○　紙芝居を活用することで，場面に分けて子どもたちが主人公の心情について考えることができるようにする。 ○　初発の感想を話し合うことで，問題場面を焦点化することができるようにする。 ○　あやが咲かせた花の模型を実際に手に持って考えることで，着物を我慢しているときの心情について深く迫ることができるようにする。 ○　他の花を見たときの感想を話し合うことで，感想だけでなくどのような心が花を咲かせるのかというねらいに迫ることができるようにするとともに，多くの人間がもつ心の美しさに十分触れることができるようにする。 ◇①　自分の身の周りにある「美しい心」を花に表し，それらを花さき山に表すことで，自分たちの身近な人のもつ「魅力」を十分に味わうことができるようにする。
深める（25）	3　みんなが知っている「美しい心」について話し合う。 みんなが知っている，あややお兄ちゃんのような優しさ，健気さを花に表してみよう。どんな「花さき山」ができるかな。 ぼくのために，先に一輪車を譲ってくれた６年生のお姉さんがいたなあ。 4　みんなが作った「花さき山」を見て感想を話し合う。 クラスみんなで，たくさんの花を咲かすことができたね。 たくさんの人が，美しい心をもっていて，それらに囲まれて生きているんだね。	美しいものや気高いものを感じ取り，大切にしようとする心情を高めることができたか。【発言，観察】 ◇②　事前に教師が準備していた，一人一人の心の美しさが書かれたカードを読むことで，自身がもつ心の美しさに気付くとともに，美しいものや気高いものを大切にしようとする実践意欲を高まるようにする。
高める（5）	5　教師の説話を聞く。	